

清津峡溪谷トンネル

施設管理者：新潟県十日町市

施設所在地：新潟県十日町市小出癸

調査見学期：令和4年10月18日（火）

施設概要

清津峡溪谷トンネルは、上信越高原国立公園内に位置し、黒部峡谷（富山県）、大杉谷（三重県）とともに日本三大峡谷の一つに数えられており、1941年（昭和16年）に国の名勝および天然記念物に指定されました。清津川を挟んで切り立つ巨大な岩壁がV字型の大峡谷をつくり、雄大な柱状節理の岩肌とエメラルドグリーンの清流が、訪れる人々に深い感動を与えています。

地質は、火山活動による噴出物や火山灰が堆積して固まった緑色凝灰岩の地層（七谷荘）に、約500万年前に地下からマグマが貫入し、石英閃緑ひん岩となったものです。冷えて固まる際に体積が収縮し柱状節理となり、その後、地盤の隆起と清津川の浸食により大溪谷の清津峡となりました。

以前は遊歩道を使っていましたが、1988年（昭和63年）に落石による死亡事故が発生したため通行禁止となり、岩が崩れやすく、安全な歩道の整備が困難なことや、国立公園内であることから、1996年（平成8年）に歩行者用トンネルとして建設されました。トンネルは全長750mで、途中に3個所の分岐があり、見晴所として雄大な景観を見ることができます。建設時には環境に配慮し、地表付近の掘削は無発破工法である割岩工法で施工されました。

トンネル内は、現代美術の展示場となっており、カラフルな照明や見晴所の壁面のペイントなどのアート作品に彩られています。特に、トンネル終点のパノラマステーションは、トンネル出口に水をたたえた「水盤鏡」が景観を反転して映し出し幻想的な眺めを作り出しています。



柱状節理のV字谷



パノラマステーション